

**事業名** 学校卒業後の学びを地域で再構築する 役割循環型・三者相互変容モデルの確立と全国展開

**事業の趣旨・目的**

・学校卒業後の障害者支援は就労接続を中心に整備が進んでいるが、地域の中で学び続け、役割を担いながら成長する構造は十分に体系化されていない。移行期における「学びと社会参加の接続」を地域単位で設計することは、生涯学習施策の重要課題である。

本事業は、移行期を「地域構造再設計の契機」と捉え、障害当事者・地域住民・保護者が相互に役割を担い変容する「役割循環型・三者相互変容モデル」を構築・検証する。意識・行動変容を可視化し、再現可能な地域接続モデルとして提示することで、学校卒業後の学びの空白を構造的に解消する新たな生涯学習の在り方を提案する。

**事業実施体制・連携先**

・メンバー構成：松本市議会議員・長野県教育委員会・松本市教育委員会・松本市社会福祉協議会・松本大学・信州大学・大町民生委員・NPO法人LomiLomiどっとこむ・当事者家族・専門学校未来カレッジ

**主な対象**

精神/知的/発達/肢体/内部障害/その他 ( )

**活動分野**

学習/文化芸術/スポーツ/情報保障/普及啓発/その他 ( )

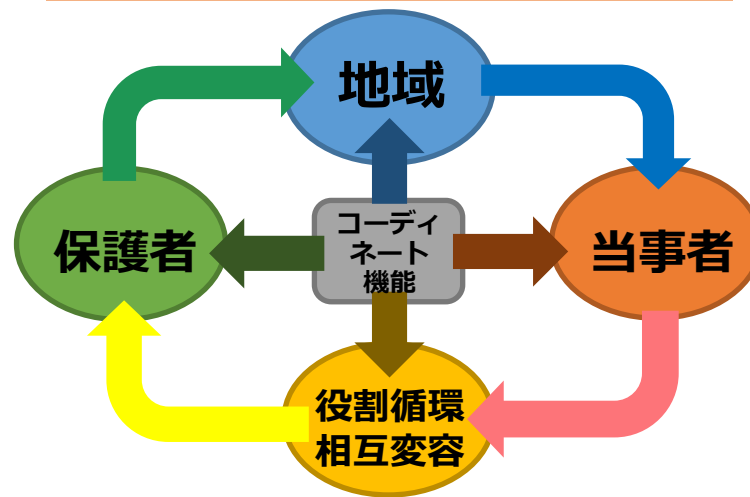
**事業内容**

後の障害者に対する支援は、就労接続を中心に一定の整備が進んでいる一方で、地域社会の中で学び続け、役割を担いながら成長するための構造は十分に体系化されているとは言えない。移行期における「学びと社会参加の接続」を地域単位でどのように設計するかは、今後の生涯学習施策における重要課題である。

本事業は、学校卒業後の移行期を「支援の継続段階」ではなく「地域構造再設計の契機」と捉え直し、障害当事者・地域住民（企業等）・保護者の三者が相互に役割を担いながら変容する「役割循環型・三者相互変容モデル」を構築・検証することを目的とする。

三者に生じる意識変容および行動変容を可視化し、コーディネート機能・学習カリキュラム・地域連携体制を体系化することで、再現可能な地域接続モデルとして提示する。これにより、学校卒業後の学びの空白を構造的に解消する新たな生涯学習の在り方を提案する。

役割循環型が生まれる構図を意図的に設計する図式



**事業終了後の目指す方向性**

- ・当事者の変容
- ・地域の変容
- ・役割循環構造の確立
- ・仕組みの構造
- ・再現可能な事業



**その他**



ホームページ



インスタグラム



地図

